

テーマ	基本計画によるまとめ（基本的方向）	松本市博物館協議会 意見交換項目（例） ＝新博物館の方向性・考え方・イメージ 等	松本市博物館協議会 意見・要望
基本理念&基幹博物館の機能と事業（確認等）	1 基本理念 (1) 目的 ア 郷土松本を担うひとをつくる イ 心豊かに夢がふくらみ育つまちをつくる (2) 性格 ア 調査研究（型ミュージアム） イ 交流（型ミュージアム） ウ 学習（型ミュージアム） エ キャリア支援（型ミュージアム）	○基本計画策定以後の特筆すべき博物館に関わる情報等	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で「信州学」が取り入れられた。高校生対応が必要になる。 ・地域の基幹博物館としての性格を鮮明にすること。 ・来館者の中で急激に増えてきた外国人観光客への細やかな対応の工夫を。 ・新博物館移転場所・工程の情報更新、伝達 ・平面駐車場の代替地確保が急務 ・東西に長い敷地だが、利用上設計上制約は生じないか。
	2 機能 ※現在のア～ウの機能に、新規としてエ・オを追加	○公共施設としての博物館の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のためにある社会的共通資本として、市民が気楽に訪れ、親しみやすく、ゆっくりできて心休まる場所 ・来館者に対して「開かれた館」となる工夫を。 ・価値ある文化財や展示品による幅広い学習支援。 ・ランドスケープデザインからの観点を重視したい。（周辺計画と並行、松本城天守からの見え方）
	(1) 収集・保存（調査研究に対応） (2) 調査・研究（調査研究に対応） (3) 展示・学習支援（学習・キャリア支援に対応） (4) 交流・情報交換（交流・キャリア支援に対応） (5) 集客・観光（交流に対応）	○博物館事業の対象者（ターゲット） ・対象は市民か観光客か、両方か。 ・市民は、子どもたちか、高齢者か、家族連れか、あるいはあらゆる層か。 ・市民の施設として必要な展示のあり方、学習・情報・交流施設として必要な機能 ・観光施設として必要な展示のあり方、必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・目的からしたら市民。しかし、これまでの経緯からして観光客も。（本市の場合の特徴） ・ターゲットは全ての市民と観光客。観光客は松本の（外国人は日本＝松本の）何を知りたいか、見たいか、体験したいか。子どもたちは、高齢者は、家族連れではどうか？さまざまに体験でき、来館者の思いがかなえられる場所でありたい。 ・両方だが、“市民”重視という当初のスタンスは貫くべきだと思う。 ・広く多くの方々を対象としたオープンスペース ・第一義には「市民」であるが、松本城とのセット券がある以上、観光客は重要な対象 ・ターゲットの設定は難しいが、子供と高齢者に特に注意をして欲しい。 ・多様な来館者、特に超高齢社会の到来に対して、あらゆる障害者に対する配慮が必要。（バリアフリーを始め、弱視者には展示の字を大きくする。トイレ等。）松本の博物館は障害者を大事にするという姿勢を明らかに示す。 ・リピーターを大切にすること。 ・あらゆる層を対象とすべき。 ・市民はあらゆる層を対象とするが、「子どもたち」にウェイトを置きたい。 ・子どもにわかりやすいというよりも、調べたくなるような見せ方が大切。 ・市民の施設として展示が来るのはおかしい。収蔵の大事さがわかり、市民の御蔵となるような施設の視点も必要。 ・対象となる層が定まった上で、それを踏まえて詰めていく流れで。 ・幅広い市民にとって、専門的な知識を得られる場であること。（博物館に行けば何か得られる。） ・専門家とのディスカッションルーム、公開講座や学習・情報共有のためのコミュニケーションルーム ・五感に訴える展示（触れる展示）を。 ・基本計画どおり、ビジターセンター機能を重視するのであれば、観光コンベンションビューローとも連携をとり、「観光情報センター」の統合、新博物館への移転を視野に入れたらどうか。 ・「目玉」となる展示品（常設展）がほしい。 ・わざわざ観光地っぽいところを求めなくても良いのでは。

		<p>○歴史遺産や民俗文化の調査研究及び成果の次世代への継承に必要な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い学芸員を確保すること。 ・市民が知らない地元の歴史や情報を、「まつもとふるさと遺産」としてPRを続けてほしい。 ・可能な限り、子ども、大人も調査研究の過程を知ったり、触れたりできる場や、継承することの大切さを学ぶ場を設ける。 ・歴史研究家の方々との交流。 ・蓄積される収藏品やデータ・資料の保存 ・年度ごとの調査研究報告を発行し、常設展等での内容展示も行っては。 ・デジタル化も含めた資料の収集
		<p>○交流を進める上での博物館の利用法、博物館の過ごし方・楽しみ方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人間性に溢れた学芸員。結局は人によって決まる。 ・初めての来館者（大人も子どもも）に対する配慮が必要。（予備知識の欠如・専門用語の消化不良）音楽や五感（知覚）により楽しく観賞できるように。 ・市民活動（博物館で学びたい人）のためのスペース、またそこで世代間交流ができ、学芸員に教えてもらったり、一緒に活動できるスペースがほしい。 ・博物館自体に何らかの興味をもって、足を運んでもらいたい。 ・専門家や市民ボランティアとの情報交換・公開講座の実施。 ・お弁当を持って来館し、1日中家族でも一人でも過ごせる施設であってほしい。 ・「ちょっと博物館に行ってくる」、このフレーズが生み出されるようになればいい。
		<p>○博物館に期待する学習支援、生きがい支援について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手法を教えるだけで良い。あまり手を取り足を取り過ぎないこと。 ・これからの教育の中心となる生涯教育の拠点となること。 ・博物館を通して松本の歴史変遷・伝統文化の継承 ・たとえば「友の会」活動の強化
		<p>○博物館に期待する地域活動支援について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員の人数と力量による。最初から過度の期待をしないこと。 ・内外からの観光客の誘致、集客。賑わいの創出など。 ・コンシェルジェがニーズに応じて相談・アドバイスができるとスムーズ。 ・地域の行事に合わせての特設催し・伝統文化の継承
		<p>○博物館（活動）の見える化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる知識、情報は目に見えない。流れ去るものを文字や映像として固定化、可視化して保存・展示を。 ・展示室だけでなく、バックヤードや館で働く人々の作業状況なども見えることは、市民が博物館を理解できる大切なことと思う。 ・観光地松本の利点を生かした情報発信 ・小・中学校、公民館などへの学芸員の「出前講座」などに積極的な対応を。
		<p>○その他自由意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来てもらう中心は市民であり、市民の文化レベルをあげるためだという点を忘れないように。観光客用ではない。 ・館内充実だけで完結でなく、松本まるごと博物館構想からすれば、館を起点にして外へ（街中へ、址蹟などへ、自然へ）広がる（足を運ぶ）視点も重要。 ・多くの方々が博物館に興味を示し、来館しやすい施設となるように、身障者にも配慮したスペースであり続けてほしい。 ・ネーミング。「市立博物館」ではない愛称を募集してはどうか。 ・博物館に行けば何か発見がある、そのような場になればよい。

テーマ	基本計画によるまとめ（基本的方向）	松本市博物館協議会 意見交換項目（例） ＝新博物館の方向性・考え方・イメージ 等	松本市博物館協議会 意見・要望
テーマ1【収蔵】	3 基幹博物館の事業 3-I 「収集・保存」 (1) 松本の〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉に関する資料と情報を寄贈・購入により収集し、必要に応じて保存処理を行い、良好な保存環境下で管理。 (2) 収蔵資料の情報はデータベース化して、博物館事業での活用と、インターネット等で公開。	○何を収蔵していくべきか。	<ul style="list-style-type: none"> ・他館との機能わけをした上で、収蔵庫の大きさなども考慮して決める ・地域を中心として、住民の生活の中から失われていくモノ・コト・民俗行事など。 ・増え続ける収蔵品の中で、保存が著しく不可能な状態のもの、数ばかり（同じもので）多くあるものは、ある程度選別が必要では？ ・歴史的価値のある資料・書籍 ・寄贈については抑制的対応とし、必要な資料のみ受入れを。個人コレクションの一括寄贈もどうか。市民参加の収蔵検討委員会はどうか。 ・どこまで、いつ、何を収集するのか。今ある旧小学校などを生かしつつ、外部にも収蔵庫は設けられないか。
		○移転に際し、資料の削減？	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはすべきでない。（失うことはいつでもできる。） ・現物として残すもの、デジタル化するものを選別して、重複するものは大幅削減する。 ・現時点で全国平均の4倍にも及ぶ収蔵点数。今後も増えることはあっても減ることは考えにくい。各専門家で構成する策定委員会等で、価値判断し、ランク付けができないか？例えば、3ランクの場合、A＝新博物館収蔵庫。B＝ある程度空調設備が整った準収蔵庫。C＝旧校舎の空き教室利用レベルの一時収蔵、等仕分けすることも必要ではないか。今後の資料受入れについても価値的判断を重視し、制限をかけることも止む無しと思われる。 ・貴重な資料なので電子保存などコンパクトにデータ保存 ・思い切って削減を検討。例えば、松代焼コレクションは長野市への移管はどうか。
		○収蔵資料で何が足りないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体像が見えないと意見は出しにくい。 ・興味をひく展示品 ・（松本城関連資料を基幹博物館で常設展示強化）
		○デジタル保存の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・是非必要だが、人と金はかかる。何でもデジタル化というわけではない。 ・今後はデジタル化が中心。またICT（情報通信技術）の活用。 ・必要な方法だと思う。 ・現物保存が基本としても、資料的価値が損なわれないものであれば（写真？古文書？）、3D保存も積極的に導入すべき。 ・現物保存とデジタル保存との併用 ・主流となろうが、当然セキュリティ（流用や加工）や著作権に注意。 ・「ここでしか見られない」から「どこでも見られる」ように、デジタル化は大切では。
		○その他自由意見	<ul style="list-style-type: none"> ・本来博物館は資料収集と保存が底辺にある。ところが松本市立博物館においては、この部分が弱かったように思う。予算化と計画性を持って動く必要がある。 ・インクルージブデザイン（ワークショップなど多様なユーザーと共に）によるモノ・コト・仕組みなどの「気付き」を取り入れる。 ・14分館がある中で、それぞれ活用法は違うと思うが、より広く市民・観光客に知ってもらうためには、基幹博物館でも分館の資料展示を年間を通じてできる展示室があるとよいと思う。（〇月～は〇〇博物館＝分館の月とか。特に市街地から遠い博物館のものや、波田地区のように分館のないところのものを。） ・膨大な資料保存となるので、資料の情報のデータベース化は得策。コストや規模に沿えば収蔵資料を図書館で導入されているようなラインコンベアーでの移動させる方法も機能的で、その過程を来館者に見せている施設もある。 ・収蔵庫の見える化、収蔵庫も見せることはできないか。 ・自然科学分野の充実が期待されている。四賀化石館の統合はどうか。

テーマ	基本計画によるまとめ（基本的方向）	松本市博物館協議会 意見交換項目（例） ＝新博物館の方向性・考え方・イメージ 等	松本市博物館協議会 意見・要望
テーマ2【展示】	<p>3-Ⅱ 「調査・研究」 (1) 学芸員による調査・研究を基本とし、市民協働、大学等の研究機関、他博物館との協働も実施</p> <p>3-Ⅲ 「展示・学習支援」 (1) 展 示 ア 常設展示 ※小学校高学年が無理なく理解できる展示 ア ビジター展示…四季の自然、年中行事、イベント情報 イ 通史展示…〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉の視点 ウ 民俗展示…松本の伝統的生活文化を紹介 イ 企画展示・特別展示 ウ 市民ギャラリー展示 エ 移動博物館</p>	<p><調査・研究> ○博物館全体での調査・研究の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 何を展示するのか、何を訴えたいのかによって決まる。学芸員の趣味では困る。 この地域の成り立ち、歴史的条件を含めた現在に至るまでの歴史や生活像を系統的に可視化してほしい。 他分野で活動する人々の力がもちろん大切であるが、市民で調査研究する人の力も活用できると、市民の学ぶ場にもあると思う。 松本を基軸とした広域の歴史的資料の収集 分館へ学芸員などのマンパワーが分散されており、現状調査研究が弱い。名大馬場家住宅研究センターとの人交流も含め、共同研究も検討しては。地元の信大との連携協働は具体的には？ それぞれの専門性を活かすためにも多くの学芸員がいればよいが。
	<p>(2) 学習支援 学校教育支援、松本学の推進、市民学芸員・ボランティアの養成と協働、キャリアへの支援</p>	<p>○学芸員の人材育成</p> <p><展示>【常設展示】 ○松本市民として、何が見たいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民の頼りになる学芸員。 極めて重要。併せて市民学芸員、ボランティアの育成が急務である。 学芸員が、調査研究したものを発表できる場（学芸員モノ語りや勧学など）をぜひ続けてほしい。 積極的支援での学芸員の育成・スキルアップ、市民ボランティア・博物館友の会との連携 専門学芸員の定期採用や小学校教員の研修受け入れはどうか。 山に関係するもの、とりわけ山の生活や民俗。 現在の自分のアイデンティティのよってきたるところ（自然・歴史・固有の生活文化など）の確認と未来へのヒント。 合併地区（1市4村1町）のもの（お宝？）が見えて（あって）、初めて「松本市」がわかる。 松本の魅力の発見（再発見）・認識（再認識）、「なぜ魅力なのか」の裏付けが重要。 伝統文化を絡めた松本の歴史的資料、お城の歴史的価値のある展示品 伝統行事、地域のお祭りなど3D映像で見たい。また道具など実際に触れてみたいし体験してみたい。 「松本なんてお城があるぐらいで…」という人がいるが、そこに挙がってくるものがもっと多くある方がいい。
		<p>○観光客に何を見せたいか。 ↑ビジターセンター展示とも関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の自然。 他の地域との条件の相違が、松本にどのような独自の生活文化を生み出したかについて。 来館者には「松本市」の自然、歴史、民俗、文化、産業など多方面からの見方を知ってもらおう。 <人><歴史・文化><自然>のカテゴリーで、「松本の魅力・自慢できるものは何か」を市民に公募するのはいかがか。 初めて松本市を訪れた人が、「松本市とはどんな所か」ということをわかりやすく紹介してほしい。 松本城を世界遺産へ、をアピールするとともに分館への誘導を。
		<p>○どのような見せ方を望むか。（ナマの迫力、実物重視。レプリカによる体験型重視。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> なにを見せるかの理念にしたがって、方策は考えるべき。 視覚だけでなく、音、聴覚なども加えて。子どもや車いすからも見やすい高さや近づきとのできる距離にも配慮。 「館」から「外」へ誘う視点。大人にも子どもにも体験できるものを。 個人的には、“体験型”をなるべく取り入れるべきと考えるが、実物展示、体験型、ともに大切。コーナーごと、それぞれの特性を生かした展示を考えるべき。また音声ガイド端末や、PDAなどは積極的な導入が望ましいと考える。展示説明に関しては、ふりがなと英語表記は必須ではないか。 タブレットやスマートフォンを活用した展示品説明。活用されている博物館等があり、より効果的では。 体験は大事。

		<p><展示>【特別展示】 ○特別展、企画展の選定方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の生活に寄り添うような内容。 ・地域に関連したタイムリーな民俗行事、人物など幅広く旬の情報を発信。 ・「特別展示」は、市民も期待していると思う。各々の思いや望みがかなえられ、自身の「学び」が広がることだと思う。 ・集客には、ある程度の知名度、話題性は必要かもしれない。 ・松本ゆかりの人物や歴史的に注目される展示品。 ・過去の特別展企画展はよく練られているが入館者数の把握はできているのか、それによる一定の評価ができる。
		<p>○特別展、企画展についてどのようなものを期待するか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松本ならではの歴史や祭礼。 ・特別展は年3回ほど。企画展は年10回くらいの開催を期待。 ・次年度の年間予定を組むに当たり、そのテーマについて、広く市民に公募して、反映させることができれば、「私たちの博物館」度もぐんとアップするはず。 ・貴重性、研究内容の評価が高いものなど。 ・松本を基調とした広範囲（分館との連携も含めて）の展示品 ・10数年前の兵馬俑展の混雑は今でも印象に残っている。 ・博物館に足を向けない人、足を向けられない人に来てもらうためにも、特別展で対応していくことも一考。 ・何かのイベントを松本市でやっている時に、そのことが街のどこにいても感じられる、そうした一体感が感じられるように。
		<p>○大規模巡回展は必要か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要。（県内博物館で唯一対応ができるため） ・予算との兼ね合いがあるが、3年から数年に1回程度。（当然のことであるが、事後評価を。） ・大規模巡回展によって、PR効果も大いにあり、博物館来場者の増加につながる。 ・東京まで行かなくても同じものが松本で見られるとなれば大きな魅力、市民の利益になる。
		<p><展示>【市民ギャラリー展示 ほか】 ○他の貸館施設との差について ・美術館の市民ギャラリーとの住み分け？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ双方が協力する形で、双方にミニ展示を設ける。 ・性格が異なるので、そんなに気にしなくても良いのでは。 ・博物館における市民の調査、研究、学びの成果を発表できる場合は、ぜひ作ってください。 ・美術館と博物館の線引きがよくわからない。 ・施設の規模やコストにより、他の貸館施設とのタイアップはオアシススペースとなり有効的。ギャラリースペースを設けるとより憩いの空間になる。 ・会議やカルチャー教室などにも利用できる貸室とし、あまり利用条件を付けない方がよい。
		<p>○（特別展示室、市民ギャラリーのほか、ビジターセンター展示、分館紹介も含め）各展示室の有料・無料区分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本来未来に向けた「ひとづくり」、「まちづくり」を言っているので、少なくとも市民は無料にすべきである。特別展のみ有料。 ・基本有料（ビジターセンター展示や分館紹介の位置付けや行う主体は不明だが）
		<p><学習支援> ○博物館をどのように利用したいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問を持って来やすい環境にする。 ・教科書で学ばないものを学ぶ。 ・知りたいこと（興味・情報）が得られ、学習でき、体験（感じる・物づくりなど）でき、さらに現地フィールドにも出かける。それらを学芸員と一緒にできることが理想。また来館者を待つよりも、積極的な働きかけ（発信）と館から外へ出る（出前）活動も必要。子どもたちへの体験的な学習、博物館を好きになってもらう工夫に力を入れてほしい。 ・幅広い年代の方が参加できるワークショップの企画。（例：公開講座） ・歴史的資料や松本ゆかりの人物や出来事を学ばせたい。 ・大人も子どもも「ちょっと博物館に行ってくる」

		<p>○子どもたちにどのように利用させたいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに来る感覚で来て欲しい。 ・地域での長い歴史があって初めて、現在があることを学習し、これからの生活（新しい文化の創造）に役立ててほしい。学校教育との連携、想像力のきっかけを。 ・調査、研究に訪れる意識の高い児童・生徒に対しては、コンシェルジェ（学芸員）がしっかり間に入って、学習支援が施せたらベスト。目的がそこまで明確でないばあいには、学年ごとに用意した学習プログラムの実践により、松本の歴史・文化を学んだり、「松本学」の推進を図ったりというアプローチが望ましいのではないかと考える。「松本検定」とのタイアップも。 ・地域の伝統行事とともに、松本の歴史や発掘した個所から出土した土器や生活用品といった幅広い関連した学習。 ・子どもたちには休日や夏休み等自習室なども設け、1日中過ごせるようなになればいい。「体験型の展示」（遊びなど）を増やす。 ・総合的学習での博物館利用を積極的に。 ・子どもが調べ学習をする中で、他にもつなげられるような支援を。
		<p>○レファレンス（照会・問い合わせ）対応のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対応できることと、できないことを明示する。また、自分がこたえられないとき、きちんと他館などを紹介できるようにする。
		<p>○来館者への図書・情報の提供について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと行うべきである。 ・駅などへのインフォメーションスペースの設置 ・図書の閲覧はできた方が良好。中央図書館のデータ共有や閲覧はできないか。
		<p>○キャリア支援の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館に何ができるだろうか。 ・公開講座などを通して、親しみやすくより身近な学習施設となるよう市民学芸員やボランティア養成の積極的な支援
		<p>○その他自由意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展示は資料収集、研究の上にあることをきちんと、市民と十分に理解しておく必要がある。 ・今後のネット社会の方向性を考えると、「知覚観賞」の考え方が必要となってくる。規模は違うが、万博パビリオンの展示が参考になるのでは？将来的にはA Iの進歩によるロボットによる説明も登場か。 ・学芸員はオールラウンドとは思いますが、得意分野（専門）を活かして学習支援ができることも望みたい。 ・新博物館が市民の憩いの場となり心潤う生涯学習の施設であり続けるよう他の貸館施設との連携・コラボレーションが大切。 ・特別展など子供向けのキャプションは用意できないか。 ・市民学芸員は機能し定着しているか検証が必要。今後必要となれば高齢化が進んでいるので新規養成を。 ・オープン記念の特別展は今から企画を。 ・特別展など協賛企業をつけ、メディアを使った周知を。 ・子どもが実際どう考えているのか。 ・博物館で子どもが考えた企画ができれば。

テーマ	基本計画によるまとめ（基本的方向）	松本市博物館協議会 意見交換項目（例） ＝新博物館の方向性・考え方・イメージ 等	松本市博物館協議会 意見・要望
テーマ3【サービス】	<p>3-IV 「交流・情報交換」</p> <p>(1) 交流事業 地域間交流、世代間交流、市民ガイドによる交流</p> <p>(2) 情報交換事業 市民・教育機関・研究機関・国内外の博物館とのネットワークの構築、情報交換</p> <p>3-V 「集客・観光」 ビジターセンター機能の重視、観光業界への働きかけ、ミュージアムショップ等</p>	<p><交流・情報交換></p> <p>○博物館で得たい情報、充実させるべき情報機能は何かあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本物はどこに行けば見ることができるか、情報を流す。 ・ネットや電腦空間の中から得られた情報ではなく、リアルなもの。 ・収集、保存、調査、研究の成果が展示・公開に活かされ、博物館に行けばなんでもわかる、相談できる、「市民の学ぶ力（来館者全て）」を伸ばす場所でありたい。 ・やはり、「昔語り、民話、伝承の語り、民具使用の実演、工芸品製作実演」のできる場が欲しい。（できれば実演を見るだけでなく、体験できる場。）高齢者との世代間交流という観点では、福祉ひろばとの連携も一考すべきか。地域間交流とも関連付けて、例えば馬場家住宅の「はた織り体験」、考古博物館での「鹿角アクセサリーづくり体験」など、まる博の地域づくり拠点を結んだ複合的なイベントタイアップ（地域の方々との交流も含め）があると、より魅力的ではないか。「暮らしの知恵」とか、「近世の松本を体感」とか、テーマ設定をして、全館的に取り組めたらまとまりも出る。一方で、拠点間を結ぶ無料シャトルバスの整備等も（夏休み等イベント期間中だけでも）必要か。 ・郷土の文化や歴史に関する資料の充実。 ・歴史的に価値のある展示品の紹介 ・基幹博物館と各施設との連携・情報共有 ・ホームページは中身が変わらなければ見なくなる。ホームページの充実を。せっかくいいことをやっているのに、「知らなかった」がないように。
	<p>○博物館コンシェルジュの育成・配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした学芸員がいれば必要ない。むしろ、そうした人に力を割くより、学芸員を充実させるべき。 ・人員配置の関係もあるが、必要な要素。 ・ボランティア、友の会、市民学芸員を始め、博物館で学びたい、博物館が好きという市民の力を活用。 ・歴史学、考古学、伝統文化など広い分野とマッチングした展示の提案 ・必要とは思いますが、どういった能力を期待し、どう機能させるのか。 	
	<p>○市内社会教育施設等との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当然必要。 ・生涯教育の観点からも連携をすすめてほしい。 ・地区公民館で学ぶ市民や館との連携。 ・市内外の博物館との連携による共同開催や「○○博物館展」などにも期待したい。 	
	<p>○産官学民金との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実態のないのにあまり言い過ぎないこと。 ・極めて必要。積極的に推進してほしい。 ・多方面でのネットワークをもって、発展・発信していくことは大切で欠かせないことだと思う。 ・信州大学との情報交換、連携。（歴史・文学・生物学・地学・科学等幅広い分野において） ・協賛企業は必要。 	
	<p><集客・観光></p> <p>○観光客受け入れ（外国人含む）に必要なこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館として、何を伝えたいかをはっきり意識しておく。 ・地元のホテル、民泊の充実と外国語による展示、道案内など地元商店街、企業、観光協会との連携が必要。 ・ユニバーサルデザイン ・「松本らしさをコンパクトに体験したい」観光客（特に外国人）が多いことから、新博物館に体験コーナーを常設し、各種プチ体験がいつでもできるといいのではないか。ビジターセンター機能重視の具現化のひとつとして、公式観光ポータルサイト「新まつもと物語プロジェクト」との連携も考えられる。 ・タブレット（外国人向けには翻訳機能付き）を使用した案内（コストを意識すること） ・職員（学芸員）の語学力アップと多言語サービス強化 ・外国語ができる人が必要 	

		<p>○レストラン・カフェは必要か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なし。(空間面積の中で優先の度合いを考えるとすれば) ・レストラン、カフェは必要な要素。地元の特徴的な料理など地元テナントの活用。 ・レストランは三の丸とその周辺の人々(営業者)の状況を充分に考慮の上で。こじんまりしたカフェ程度で、お茶受け、おやつ程度の郷土食などはいかがか。 ・休憩所程度のものは必要。 ・くつろぎスペースとして有効。 ・制約があればカフェだけでも。 ・公共図書館で民間のカフェを入れて成功しているところもある。
		<p>○ミュージアムショップに期待すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単なる土産物屋になってはいけない。 ・ミュージアムショップは地元のオリジナル品の開発が必要。商工会議所や企業との連携が必要。 ・オリジナルグッズの開発。(ちょっとした小物など) ・オリジナルグッズの販売と展示品レプリカの販売。 ・経営は民間へ。売れ筋商品の開発と増強。ショップは大名町通りに面し別棟でも可。閉館後も営業を。
		<p>○その他自由意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・客の大小を言う前に、心に残り、影響力を与えられる博物館になること。集客・観光の考え方は良くない。 ・サービス部門では、特に民間の力(市民・NPOなども含め)やアイデアを取り入れると、活力が増すのではないかと思う。 ・これまでの企画を重ねて、お城のある松本ならではの利点を生かし刷新された博物館 ・博物館ホームページのレベルアップと頻繁な更新を。(ホームページの充実は集客に不可欠) ・スポンサー企業を確保し、特別展などの開催やショップ商品などに反映できないか。

テーマ	基本計画によるまとめ（基本的方向）	松本市博物館協議会 意見交換項目（例） ＝新博物館の方向性・考え方・イメージ 等	松本市博物館協議会 意見・要望
テーマ4【建築・体制】 【その他】 素々案確認	<p>4 施設整備の方針 建築デザインに対する7つの方針の明記</p> <p>ア 松本らしさを表し、多くの市民の合意が得られ、市民の誇りとなるとともに、デザイン自体に魅力があって集客効果を持つ。</p> <p>イ 歴史的建造物が集積する本市の歴史的特色を踏まえるとともに、市の景観条例にのっとり、歴史的景観と調和する建物で、陳腐化しないデザイン。</p> <p>ウ 外観だけではなく、内側から屋外を見た際の借景的な景観にも配慮</p> <p>エ 市民が構えずに普段着で立ち寄れるような親しみのもてる雰囲気づくり</p> <p>オ ユニバーサルデザインにより、すべての人が等しく利用できるよう配慮し、利用者の意見を取り入れながら計画するとともに、開館後も随時見直しを行う</p> <p>カ 環境に対しきめ細かく配慮した施設整備を行う</p> <p>キ 災害時には近隣の博物館等の資料を一時預かりできるような堅牢な施設と空間を確保</p>	<p><建築></p> <p>○「松本らしい」博物館の外観、イメージは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集客効果と最初からいわない。周囲の景観にマッチする。土蔵、瓦葺きかな。 ・「松本らしさ」は、ひとつには自然的条件を基礎として、長い歴史の中で徐々に醸成されてきたもの、風土、住民の気質など生活文化の中に無意識的に浸み込んでいる。しかしこれからは、「三つのガク都」を目指して、新しい文化を創造して、世界に発信する拠点のモデル博物館であってほしい。 ・松本城、三の丸、自然（山）景観にマッチしたもの。建物の目立ち方、ユニーク（奇抜？）さでなく、博物館として機能性重視のもの。また建物の周りには湧水（井戸）や緑を充分に取り入れて、ミニビオトープの空間ができるとよいと思う。 ・松本城と恵まれた自然（山岳） ・自然光を利用する等し、明るく入りやすい外観がよい。 ・機能性を兼ね合わせた環境にマッチした好感のもてるデザイン。 ・防災上の観点は重要だが、「木材」を利用し温かさや優しさをだしてほしい。（特に内装） ・松本らしさをよく考える必要がある。お城があるから城下町風にするのか、それとも今現在の街並みに合わせるのか。
	<p>5 管理事業運営・組織体制</p>	<p>○「松本らしい」博物館に期待すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松本らしいとは何かを検討してからでないといけない。この意識の中に合併した旧村は入っているのか。 ・まち（地域づくり）づくりにもよく言われるストーリー性の大切さ。 ・松本の歴史や情報発信の施設 ・デザイン偏重にならないこと。機能を重視。 ・お城の天守からの見え方も重要なポイント
		<p>○建設予定地の土地利用についてのアイデア（敷地全体の土地利用の方向性）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三の丸地区の再開発等の目玉の施設であり、駐車場問題を含め、弾力的な考え方が必要。 ・立ち寄りたくなるようなオアシススペースに美術的作品（オブジェやミニモニュメント）があってもよい。 ・周囲のまちづくりと一体として考えること。 ・長細い敷地であるが、広く感じるような建物になること。
		<p>○新博物館に望む設備等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あったらいいな、できたらいいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性に配慮し、使いやすい館。 ・設計者の勝手な思い込みはいい迷惑。 ・休憩する場所をいくつか用意。（多様な入館者が対応できるように）ロッカーも必要。 ・博物館に来るとホッとする。なごむ。思考できる。誰でもが気軽に来られるという場所でありたい。 ・現在、いったん埋められている大手門枳形跡が再び見られないか。発見された石垣や水野家の家紋の瓦などを目のあたりにすることで、松本のナマの歴史を感じ、感銘を受ける人も多いはず。立地や維持管理等、物理的に難しいのは承知の上。これが難しいにしても、新博物館の建設を進める上で、発掘作業も行われるとすれば、半地下状態で、ガラス越しにでも歴史的ロマンに思いを馳せられるものが見られる“現場展示室”があったら魅力的だし、“ウリ”にもなるものだと思われる。 ・ボルダリング壁（岳都）はどうか。 ・プラネタリウムもあればよい、自然科学分野として。
	<p><体制></p> <p>○運営体制はどうあるべきか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした専門家と、事務との協力体制がとれるようにする。 ・従来の考え方にとらわれず、運営体制も民間企業の活力を活用してほしい。リスクマネジメントも併せて。 ・職員や専門家を中心とし、関連施設との連携・円滑な運営を保つ。 ・嘱託職員をどのように考えるのか。 ・分館を統廃合しマンパワーを集中し、基幹博物館としてのワンストップ性を高めることも必要では。 	

		<p>○新博物館における民間活力の活用への考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間活力とは何で、公的博物館が何をしなければいけないのかの議論に立つべき。あまり活用などといっていると、実際には双方に良くない結果も出てくる。 ・今、社会経済は大激動期を迎えており、企業は日々熾烈な生存競争の中にあり、常に新しいアイデアを求めている。地域間競争もまたしかりである。 ・可能な限り、民間活力が活用できるとよい。 ・可能なものはできるだけ民間委託などへ。 ・P F Iは具体的に検討か？
		<p>○その他自由意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としてこのシートの作りでは観光客、集客力に力を置いているように見える。大事なのはどれだけ市民の文化力を育てることができる博物館になるかであって、客が何人入ったかではない。 ・優れた施設を造るには、何にもまして、優れたユニバーサルな設計事務所の選定が全てであると考えられる。ぜひ優れたコンセプトや経験を有する設計事務所を選定してほしい。 ・災害から貴重な資料（収集物）を守るために、14分館のどこかに同じく堅牢な施設を造り、分散することが必要ではないか。 ・松本ならではの基幹博物館が、お城のある立地を生かして、松本らしさを保ちつつ、多くの広い範囲でのグローバルな施設づくり、グレードアップされた新博物館を。 ・長野市芸術館のように、できあがったら2階席からステージが見えないなどという問題が発生しないように。 ・全国の博物館の状況は良く分析されているが、データ基準日以降のリサーチはしているか。 ・敷地に地下を設けるのは本当にダメなのか。